



# ち おん

年頭あいさつ

筆頭総代 加藤 弘

お檀家の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととご推察申し上げます。

智恩寺の運営にあたりまして、いつも温かいご支援を頂きありがとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

世界経済が不安な

状況であり、景気が大きく減退して

いる昨今でございます。

このような現状の中で智恩寺の庫裡建設に変わ

らないご支援を頂いており大変恐縮致しておりますとともに感謝致しております。

昨年の総会では、積立金をお願いをしましてから予定計画の五年の節目を迎えたということ

で今後の進め方等のご意見をお伺い致しました。

今年の総会には、詳細な資料を作成してさらにご協議ご検討をしていただきたいと思います。

昨今、時々耳に致しますが、本堂が出来上がり目出度く落慶式が行われたと・・・。その時改

## 謹賀新年

檀信後皆様のご多幸をお祈り申し上げます  
本年もよろしくお願いいたします

平成二十一年元旦

神余山 智 恩 寺

めて思うのは、菩提寺（智恩寺）の本堂は先代のお檀家の方々の逞しいお力添えのもとで建立され、今も立派な姿でお檀家の方々を見守っているということ。そのようなことに感謝すると同時に、お預かりしています本堂を後世へと立派な姿で引き継いでいかなければと思っております。

最後になりますが、お檀家の皆様方のご多幸をご祈念申し上げますとともに、庫裡建設に今後とも変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

### 特別寄稿

凧

東京都世田谷区

西澤 静江

最近では、ビニール製のカイトが主流になっていますが、凧の起源はきわめて古く紀元前二百年代に漢の武將韓信（かんしん）が、楚軍（そぐん）と戦った時に、未央宮（びおうきゆう）との遠近を測るのに用いる為に作ったのがは

じまりとか、五代のとき漢の李鄴(りぎよう)が竹の笛をつけた紙鳶(しえん)を作ったのが風箏の始まりとか、様々な俗信があるようです。

日本には平安時代以前に中国から仏教と共に伝わったときられています。紙老鴿(しろうし)または紙鳶と呼ばれ、風揚げは芸芸の一種として行われていた。それが次第に一般化され発達した。一五七二年(元龜三年)の端午の節句に、松平頼母(まつだいらたのも)らが浜松城大手前で源五郎(げんごろう)を揚げたと記録があり、当時すでに各種の風が作られていたようです。

(百科事典参考)

元和年間の頃には長崎代官長谷佐兵衛と云う人が「烏賊幟」にろうそくをつけて夜中に揚げるなど(灯籠のようなものを想像しますが・)しだいに工夫され、江戸時代にはお正月の子供遊びとして流行するようになりました。

風を揚げる時期は、この他に三月、五月の節句やお盆に揚げる所もあるようです。本来は単なる遊びではなく、子供の成長を祝い、将来の多幸を祈って誕生祝いなどに揚げました。高知県などでは還暦の祝いに風を揚げる風習があるそうです。また、大人の競技として大風揚げや風合戦などを行う地方があり、現在は埼玉県庄和町、新潟県三条市、静岡県浜松市などで年中行事として行われています。



年占い、厄除け、豊作祈願などいろいろな意味をもっていました。全国各地にはそれぞれの郷土色をもった風があります。

字風と絵風があり、形も様々で、角形、菱形、長方形、六角形、丸形、同じ形のを沢山つなげる連風など江戸風としては長方形に錦絵を描いた歌川派、故橋本貞造氏の風があります。

その流れを継ぐ風絵師、私の先生は、故橋本氏から聞いたことがあります。武者絵を揚げるようになるのは勿論、空に揚げる風を作るのはそう簡単ではありません。形、骨の削り、糸目のつけ方に工夫が必要です。風をよみ、糸の太さを変えます。しかし、大空をキャンパスとして空に自分の作った風が揚がるのは爽快です。

現在は、風は名が上がると言って縁起物として、力士や政治家、芸能人、子供の将来を祈願して名前を入れた飾り風も多く用いられています。

\*避雷針は、一七五二年アメリカのフランクリンが風で稲妻の放電現象を確かめ、発明したとのこと。

写真は、先生が考案しました『日の出鶴』の飾り風(製作は筆者)です。

その後のカラス

住職 奥村孝司

♪鳥なぜ鳴くの鳥は山に♪

可愛い七つの子があるからよ♪

可愛い可愛と鳥は鳴くの♪可愛可愛と鳴くんだよ♪

山の古巣へいって見てご覧♪まあ面白い眼をしたいい子  
だよ♪ 【七つの子 野口雨情作詞 本居長世作曲】

あれから二十九年経った。そのカラス、二代目となって函館の上空を行き来していた。今日は函館山から夜景なんぞを・今日は立待岬の岩場で・お墓でお供え物を・・・。(カラスの寿命は一般に三十年前後と聞く)

先代のカラスは函館に飛来してしばしお寺の近くで大勢の仲間と打解けて楽しく過ごしていた。函館山を塙として親子仲良く暮らしていたのである。いつものように夕方になると道端の電線に大勢集まって決まって函館湾を見て一日の労を癒すかのように互い寄り添いながらかたまっていく。まるで一日の情報交換をしているかのよう・・・。それにもまして電線がカラスの重さで切れやしなかないとも思っていた。冬のある日、夕方近く雪が舞ってきた。今日も電線には黒集りのカラスの群れ。よくよく見ると一羽だけ山の方を向いていた。どうしたことだろう。具合でも悪いのだろうか。しばし見入ってしまった。とその次の瞬間、そのカラスが電線から落下してしまったのである。



窓から見える電線は遠くに見えていてその後の行方は定かでない。(旅の疲れと老化に勝てず死んでしまったのか)まさしくそのカラスが先代であった。

思い起こせば今から二十九年、師匠のお寺(実家)の寺報「福寿院だより」に端を発している。たよりの内容はこうである。

「カラス鳴きが悪い」七月二十日である。

四日間連続毎日であった。

「♪カラス♪なぜ鳴くの♪カラスの勝手でしょー♪」

いま流行りの歌である。歌は呑気だがあまり気持ちのよいものではない。「カラス」は霊鳥である。人間の死を告げるとまで信じられてきた。 (中略) 福寿院の

裏山の上で急降下爆撃みたいに入り乱れ泣き叫んでいた。誰かが亡くなるのかな!本堂の上で鳴くなんて!

自分は二十五日より四日間、鳥取市において第二十三回全国私立保育園研究大会に出席することになっている。

(中略) なんとなく心配になってきた。

出発2日前に酒席で仲間と言われた。「カラス鳴きが悪いから(飛行機でなくて)新幹線で行ったら?」「取りやめた方がよいのではないか?」との話が飛び出すのであった。人間ってここは弱いものである。気にはしていたが予定通り出発した。七月二十五日午前八時五十五分羽田空港を飛び立った。(鳥取空港まで) 双発機である。鳥取まで2時間の飛行である。

（中略）　　万が一落ちたらどうなるのかなー。な  
どと不安がこみあげてきて（下界を）見ていられない  
のである。五十歳を過ぎるとこんなにも弱くなるのだ  
ろうか

。愛知県の上空にさしかかったらエレベーターに乗っ  
ているみたいにス〜ツツと落ちるみたいになった。地  
獄の底へ引きづり込まれるみたい。気持ちが悪い。「も  
うしばらく辛抱ください」とスチュワードさんの  
アナウンスである。（中略）　　午前十時五十分鳥取  
空港に着陸した。

「♪カラス〜なぜ鳴くの〜カラスの勝手でしょ〜♪」

その通りだった。（以下略）　　

たかがカラス、されどカラス。カラスが不吉な鳥と思われ  
るようになったのは、真っ黒な体と変化に富んだ独特の鳴  
き声、死肉を食べる姿などに原因があると思われ、死や病  
の予知へとつながったのも喪服のような真っ黒な姿や時々  
聞かれる寂しげな鳴き声が理由と考えられるようだ。結局  
師匠は六日間に亘りカラスに悩まされ意気消沈していたの  
である。

そういえばこの歌、当時『八時だよ！全員集合』というテ  
レビ番組で替え歌として流行っていた。

さて、カラスの勝手に話は終わらせたくない。



インターネットで調べていたらこんなことが書いてあつ  
た。雨情さんが生前、こんな質問にあつたそうである。  
静かな夕暮れに一羽のカラスが鳴きながら山の方へ飛ん  
で行くのを見てなぜ鳴きながら飛んで行くのだろうか？と  
尋ねたら“そりゃ君、自分たちの子供がいるからだよ。  
その鳴き声を見たまえ、可愛い可愛いと言っているよ。  
可愛い子供達は巣の中で親ガラスの帰りをきつと待つて  
いるに違いない”と答えたそうである。

これによつても、雨情さんが七つを七歳としていないこと  
が解る・・・。

たくさんの意味を七つという言葉で表現したようである。  
カラスの勝手ではない。雨情は自然を愛するところ、生き  
とし生けるものへの愛、弱者へのいたわりなどを我々に教  
えてくれているのである。さらに次世代を担う子どもたち  
の心の滋養だという姿勢を貫いたようである。

修証義第四章第二十二節に

「愛語といふは、衆生を見るに、先づ慈愛の心を発し、顧  
愛（こあい）の言語を施すなり」というくだりがある。

顧愛（こあい）とは、同情憐愍による慈愛のこと。母親  
が自分の赤ん坊に対するように、自己の苦勞も忘れ、欲  
得の心をはなれて、ただその成長と幸福を願つて子供の  
ためにつくすように、一切衆生に対して、同じような慈  
愛の念をもって言語するのが愛語である。もし相手にす  
ぐれた徳があり、長所美点があるならば、それをほめた



たえ、相手をさらにその長所美点に向かわせ、はげむようにしむけてやるべきで徳がないのにいたずらにほめたり、徳があるのにこれを無視したりさげすんだりしてはならない。徳がないのにほめることはへつらいか、相手を利用しようという魂胆があるからであり、徳があるのにほめないというのも、相手をおさえつけたり、おとし入れたりするような邪心があるから・・・もし相手に徳がなく、美点長所がなかったとしても、しかったり軽蔑したりすることなく、相手をあわれみ、ますます慈愛の心をもって愛護すべきなのである。それは親が出来る悪い子供を、他の子供よりも一層不憫に思って可愛がるようなものである。そんなことを考えるとあのカラス（空巢だなんてふざけている場合ではない）も函館に降りたっているいろいろ苦労したに違いない。環境の変化や言葉の違い、習慣や風習・・・それぞれに長所短所ある生き物だということである。

「みんな違ってみんないい」と語った童謡詩人金子みすゞ。どんな人でもモノでも互いに認め合うことである。だから七つの子がそこにいるのである。目的を持って今日も二代目、先代の教えを守り函館の空を自由自在に仲間と飛び遊んでいる。



正月をひもとく＝お供え・飾り＝

**鏡餅** その由来：鏡餅とは神供用の丸くて平たい餅のことで、お供え・御鏡ともよばれる。もともと年神様に供える餅のことを言いました。鏡餅の名前は、鏡の形に由来する。古く、鏡は神の依る所と考えられ、宗教的な意味合いの濃いものだった。

**橙**（代々）：代々家が続くという縁起物。何代もの実が一つの木になる事から長寿の家族に見立てられ、目出度いものとされる。

**ゆずり葉**：新しい葉が出てから古い葉が落ちるとこに由来。家督を親から子へゆすり、代々続くことを願う気持ちが込められる。

**裏白**：葉の裏が白いことから白髪になるまでという長寿の願いが込められる。左右に開く大きな葉は諸向きといって、夫婦仲が良いことを表す。

**串柿**：柿＝嘉来の字をあて、喜び来るの意がある。

**四手**：御幣、紙垂とも。稲穂の垂れ下った姿を表す。一般によく見る四手は、三刀四下がりといって和紙に三箇所切り口をいれて折られたもの。

**昆布**：悦ぶに通じる。広布（ひろめ）、夷子布（えびすめ）のめでたい異称もある。

**鏡開き**：供えた餅を下げる日を鏡開きという。鏡あげ、オカザリコワシとも呼ばれていて、餅を叩き割って雑煮や雑炊にして食べる。 【室礼歳時記参照】

**永平寺近況:**長男(孝祐)も修行1年10か月が終わろうとしています。いま監院寮(かんにんりょう)といって、永平寺全体を仕切る監院老師の下で修行中です。来春、二男(孝弥)も修行に入る予定です。【下記記念写真は、禪師様お付きの老師が永平寺をお辞めになる時の写真で、2列目中央が長男です】



祖山 接賓 泰然侍者乞暇記念 平成20年御征忌

**【寺務日誌】**

- 1 1月 15日 智恩寺庫裡建設委員会三役会
- 1 1月 9日 雲龍寺施食会
- 1 2月 1日 東光寺先住忌

**## 今後の予定 ##**

- 1月 1日 元朝祈祷 新年付け届け
- 1月 12日 新年祈祷会/役員会
- 2月 3日 節分会

一句献上

**初心忘るべからず**

悟りを求めるところが初めて起きた態とその人を指し「初発心(しょほっしん)」という。その略。

~今日は残りの人生の  
最初の日~

**あとがき**

知り合いのお鮭屋さん、昨今、回転寿司に押されてお客さんも離れていると嘆いていた。世の流れとはいえ歴史と伝統を重んじ、日本の食文化の象徴でもあるお鮭(酔し)。本物の鮭を食べて頂きたいと力説する。そんな「すし」の字にも表れていて、寿司は当て字だそうである。偽装や振り込め詐欺等々。本当のなにかが失われている。誤魔化し、騙し、結果往来がまかり通る危ない世の中だ。季節感も薄れ、いつでも旬? のものが溢れている。小学低学年生にサンマを絵に描いてくださいといったら、切り身を描いた生徒が三割方を占めたという。所詮モドキはモドキ。本当の味、本当の形、本当の文化に出会うことが必要である。これぞお鮭! それからでも遅くない。本物は価格的にも高い気もするが、ここは気張って何かの思い出とともにちよっと自分にプレゼント。